

これからの県立高等学校の在り方にかかる検討について

1 令和7年度における検討の経過

（1）附属機関「滋賀県立高等学校在り方検討委員会」

令和8年1月23日 第1回滋賀県立高等学校在り方検討委員会

- ・委員長の選出、職務代理者の指名
- ・諮問
- ・協議「これからの滋賀県高等学校教育の在り方について」

令和8年3月30日 第2回滋賀県立高等学校在り方検討委員会

（予定）

- ・論点設定による審議
（案） 「高等学校教育の役割について」
「本県の産業教育の在り方について」
「支援・配慮を必要とする、一人ひとりに寄り添った学びの在り方について」

（2）教育・子ども若者常任委員会

令和7年10月10日 これからの県立高等学校の在り方にかかる検討の進め方について

令和7年12月12日 これからの県立高等学校の在り方にかかる検討について

令和8年3月11日 これからの県立高等学校の在り方にかかる検討について

（3）ヒアリング

①高校生	令和8年3月～	4回（予定含む）
②大学生	令和7年12月～	3校 25人
③保護者等	令和8年1月～	2回 15人
④私立高等学校	令和7年10月～	10校
⑤大学	令和7年10月～	9校（予定含む）
⑥教育関係団体	令和7年10月～	1回
⑦不登校相談支援団体	令和7年12月～	2回（予定含む）
⑧企業	令和8年2月～	1社
⑨県立高等学校管理職	随時実施	

（4）アンケート

①県民対象 「目指したい滋賀の高等学校教育の姿について」

- ・実施期間：令和7年12月～令和8年3月末
- ・実施方法：しがネット受付サービス
- ・回答数：369件（令和8年3月6日現在）

2 令和8年度における検討の進め方

(1) 附属機関「滋賀県立高等学校在り方検討委員会」

令和8年5月～6月頃	第3回滋賀県立高等学校在り方検討委員会 ・論点設定による審議
令和8年7月～8月頃	第4回滋賀県立高等学校在り方検討委員会 ・論点設定による審議
令和8年9月～10月頃	第5回滋賀県立高等学校在り方検討委員会 ・答申（素案）
令和8年11月～12月頃	第6回滋賀県立高等学校在り方検討委員会 ・答申（案）

(2) ヒアリング

①高校生	（現時点で実施を調整中 1回）
②大学生	（現時点で実施を調整中 1校）
③保護者等	（現時点で実施を調整中 2回）
④私立高等学校	
⑤大学	
⑥子育て支援団体	（現時点で実施を調整中 1回）
⑦不登校相談支援団体	（現時点で実施を調整中 3回）
⑧その他各種団体（教育関係団体、経済関係団体、福祉関係団体 等）	
⑨市町、市町教育委員会	
⑩県立高等学校管理職	
⑪教員	（現時点で実施を調整中 2回）

※県総合教育センター研修（ミドルリーダー研修）での実施を含む

(3) アンケート

- ①生徒・保護者対象アンケートの実施（対象想定：高校生、中学生、保護者（小学生～高校生））
- ②県民対象アンケートの実施

(4) 附属機関「県産業教育審議会」の設置、開催

(5) 県民フォーラム、地域ワークショップなどの県民との対話の機会の設定

(6) 滋賀県立高等学校在り方検討委員会からの答申 令和8年12月（予定）

(7) 県民政策コメントの実施 令和8年12月（予定）

(8) 県議会（常任委員会）には、検討状況について適宜報告

(9) 県および県教育委員会としての考え方（新方針）の策定・公表 令和9年3月（予定）

【第1回滋賀県立高等学校在り方検討委員会 開催概要】

■開催日時

令和8年1月23日（金）13時15分～15時10分

■開催場所

滋賀県庁 東館7階 大会議室

■出席者

出席委員18名 朝比奈委員、生駒委員、太田委員、加藤委員、門田委員、蒲生委員、岸田委員、小玉委員、炭谷委員、竹林委員、中井委員、中野委員、永浜委員、原委員、藤田委員、森下委員、安田委員、吉嶋委員

滋賀県教育委員会 村井 教育長、上田 教育次長、北川 教育次長、
岸村 高校教育課長、浅岡 魅力ある高校づくり推進室長

〔 関係課：教育委員会事務局各課、高等教育振興課、子ども若者政策・私学振興課
財政課財産活用推進室、行政経営推進課、みらいの農業振興課 〕

■傍聴者数

6名

■開催概要

（1）委員長の選出

原 清治 委員（佛教大学教育学部教育学科教授）を委員長に選出

（2）職務代理者の指名

森下 あおい 委員（滋賀県立大学副学長）を職務代理者として指名

（3）村井教育長より諮問

「児童・生徒数の減少が見込まれるなかでの県立高等学校の在り方」

- ① これからの本県高等学校教育の在り方
- ② 県立高等学校の配置の在り方



（4）協議「これからの滋賀県高等学校教育の在り方について」

<委員からの主な意見>

- 私立高校との比較の視点が多くなるが、そればかりに終始するのではなく、県立高校としての存在意義を改めて検討することもこの会議の役割の1つではないか。
- 今の高校生たちがいろいろな地域活動に取り組んでいることを羨ましく思う。高校を通して地域と関わる活動を積極的に取り入れることで、地域に愛着を持ってもらえ、滋賀の子どもたちが豊かに育つと考える。
- 不登校や外国にルーツのある子どもなど、様々な背景を持つ子どもたちの教育ニーズに応じて、学びの機会を確保することは、これからの共生社会の実現に向けてとても大切なこと。そのためにも、多様な生徒への理解と指導力、専門家や関係機関との連携強化が大切。

- 人とのコミュニケーションをとりながら行う体験的な学びは、高校生でも大切。少しでも多くの人や社会と関係性を築く手立てを考えることが大事。
- 高校は依然として「集团的統制」が強い。そうではない、ゆるやかな高校があってもよい。
- 産業構造の変化に、どれだけの高校が応えられているのか。農業高校、工業高校以外にも、情報化に対応するような高校、産業界からのニーズに対応ができる高校が必要。
- 生徒の居場所になる高校が必要。私学の方が設備、環境が充実しているが、県立高校はどのように差別化していくのか。無償化拡大によって、県立高校がすべり止めようになっていくのではないかな。
- 高校生に Google などのアカウントを 1 人ひとりに用意し、紐づけることによって、いろんな情報にアクセスできるようにしてはどうか。
- 若い世代の時から「世界と戦える人材」を育成する必要がある。そのためには、①海外留学（特に成長が期待できるインドなどへ）、②県内企業への高校生インターンシップ、③A I の活用。インターンシップや AI 活用には、産業界の方に臨時講師をお願いしてはどうか。
- 親の立場からしたら、子どもに幸せになってほしい、一人で生きていける力をつけてほしい。これからは正解のない課題に向き合っていく時代。自分で考える、自分で答えを見つける力を高校で身につける必要がある。
- 高校の環境整備も大事だが、通学の環境整備のことも考える必要がある。
- 企業としては「人間力」がある人材を求めている。A I やデジタル技術が急速に進化していくなかで、人が担う役割は何かを明確にしていく教育が今まで以上に求められている。リアルな場でしか得られない学びの価値が重要になっている。五感を使った体験や、多様な人・社会、実際の出来事と関わる中で生まれる気づき、失敗、心を動かされるような感動体験など、デジタルではできない、人としての基盤を作る学びが重要。
- 海外など異なる環境に身を置くことで学べることが多いので、いろんな選択肢があるのが良い。
- 私立に行くと手厚く面倒を見てくれるがお金がかかる。公立に行くと授業料は安い、塾に通う必要が出てきて、結局お金がかかる。
- AI の活用は、停電などが起こると、使えなくなることも考えておく必要がある。
- 先生の待遇をもっと良くしてあげてほしい。
- 高島市の勉強ができる子は、市内の高校では物足りなくて、膳所や比叡山高校に通ったりしている。各地域に、しっかりと勉強ができる学校、引っ張っていくような学校があってもよいのではないかな。
- 保護者の間では、公立に行っても塾に行くことで、私立と同じようにお金がかかるという話がある。学食があるといった理由からも私立が選ばれていると思う。
- 他県では、公立高校の第 2 希望まで出願できる。滋賀県でも受験システムを見直してもいいのでは。
- キャンパス制にするのが良いと思う。長浜や高島に、膳所高校のキャンパスを作ってはどうか。
- 地域と連携することはすごく大切ではあるが、「探究」を強く押し出しすぎて、高校生が深掘りしないままに、地域や企業に行くことで、結果として、高校と地域・企業の隔離が広がっているのではないかな。そのためにも、地域としっかりと産学連携ができるコーディネーターが学校に 1 名ちゃんといるということが必要だと思っている。
- 保健室や図書室以外に、高校生の居場所となるスペースを一室つくることで、子どもたちが学校に行く理由にしやすいのではないかな。
- 大学生でしんどさを感じている子が多くなってきている。自分で立つ力はもちろん大事だが、「協働」がしんどい生徒もいる。「協働」から解放してあげてほしい。
- 「多様な」という言葉が便利な言葉として乱用されていると思う。100 人いれば 100 の個性がある。「多様な」ではなく「一人ひとり」でいいのではないかな。
- 私立と公立は、依存するところは依存し、競うところは競うような関係が必要ではないかな。

- 高校では、学びに向かう力を育てる、というところも基本の一つにあるのではないかと。どういう経験をして、その後の自分の道を拓いていくか、そういうことが高校の時からできると良い。
- 小さな町では県立高校が地域に担う役割は大きい。
- 学びに関しては、小・中・高・大・社会が一体化して、考えていく必要がある。それぞれの学びの役割は何か、子どもたちを社会に送り出すにあたって、どの段階でどういうことをするのか、ということをもっと共有すべき。
- 子どもたちの学びを支える人材（教員マインド、スキル、人数）と、環境整備が必要。
- これからの高校教育の在り方として、①設置学科での学びを地域に還元する活動の充実、と②多様な背景のある生徒への丁寧な支援、を期待したい。
- これからの高校の配置の在り方については、大胆な改革の提案を望む。それぞれの高校が学校名を残したいがために現状維持を望むのではなく、大学のように校舎は分散しているけれど、一つの総合的な高校として調和していると可能性が広がるのではないかと。



< 次回の議論に向け、委員長より求めのあった資料 >

- ① 県内のどの地域の子供たちは、どこかの高校に進学しているのか、また、地元地域の高校に進学している割合がどうか、などといった生徒の動向が分かる資料
- ② 大学生や高校生などへの意見聴取を進めていただき、その意見をまとめた資料
- ③ 他都道府県での高校改革の取組事例

< その他、委員長より >

- 委員会における議論をしている間に、国の政策がどんどん進んでいくと、後手後手となるので、委員会の結論を待たずに、教育委員会として、必要な取組を進めていただき、共有をお願いしたい。
- 第2回以降はテーマを絞りながら議論したい。

■次回（第2回）開催日程

令和8年3月30日（月） 9：30～11：30 県庁東館7階大会議室

	開催時期	協議内容等
第1回	令和8年1月23日（金）	○委員長の選出、職務代理者の指名 ○諮問 ○審議の進め方 ○協議「これからの滋賀県高等学校教育の在り方について」
第2回	令和8年3月30日（月）	○論点設定による審議
第3回	令和8年5月～6月頃	○論点設定による審議
第4回	令和8年7月～8月頃	○論点設定による審議
第5回	令和8年9月～10月頃	○答申（素案）
第6回	令和8年11月～12月頃	○答申（案）

滋賀県立高等学校在り方検討委員会 委員名簿

任期 自：令和7年12月24日 至：当該諮問に係る調査審議が終了するまで（概ね2年間）

（敬称略）

	氏名	現職等
委員長	原 清治	佛教大学教育学部教育学科 教授
（職務代理者）	森下 あおい	滋賀県立大学 副学長、教育・学生支援担当理事 滋賀県立大学人間文化学部 教授
	朝比奈 遙	特定非営利活動法人おおたき里づくりネットワーク
	生駒 智昭	滋賀県立野洲養護学校 校長
	太田 拓紀	滋賀大学大学院教育学研究科 副研究科長 滋賀大学教育学部 教授
	加藤 結菜	公募委員
	門田 陽介	公募委員
	蒲生 仙治	日本ソフト開発株式会社 代表取締役社長
	岸田 洋平	滋賀県 PTA 連絡協議会 会長
	小玉 恵	株式会社たねや 執行役員 経営本部 本部長
	炭谷 将史	滋賀県公立高等学校 PTA 連合会 会長
	竹林 幸祥	滋賀県私立中学高等学校連合会 会長 比叡山中学校・高等学校 校長
	中井 智美	一般社団法人ママパスポートコミュニティ 理事
	中野 龍馬	しがとせかい株式会社 代表取締役
	永浜 明子	立命館大学スポーツ健康科学部 教授
	福永 かおる	長浜市立高月中学校 校長
	藤田 善久	滋賀県都市教育長会 会長 東近江市教育長
	安田 寛次	日野町教育委員会教育長
	吉岡 裕子	株式会社滋賀銀行 営業統轄部 地域振興グループ長
	吉嶋 幸子	滋賀県立甲南高等学校 校長 滋賀県立甲南高等養護学校 校長

本県高等学校教育に関する、県民・大学生等からのご意見（概要）

（現在実施している県民対象アンケート、大学生との意見交換、中学校進路担当等から、
これまでに聞かせていただいているご意見）

1 アンケート「目指したい滋賀の高等学校教育の姿について」

（１）アンケート実施期間 令和 7 年 12 月～令和 8 年 3 月

（２）アンケート回答数 369 件（令和 8 年 3 月 6 日時点）

（３）アンケート回答者属性

県内居住	345
県内在勤	91
県内在学	36
過去に県内居住・県内在学	14
その他	5

（重複あり）

男性	95
女性	268
その他	－
公表していない	－
回答したくない	6

高校生世代	15
若者世代 （大学生・大学院生・各種学校等に通わ れている方～おおむね 30 歳未満まで）	23
高校生保護者	74
中学生保護者	151
未就学児・小学生保護者	129
小学生	6
中学生	3
高校教員（県立）	13
高校教員（私立）	－
中学校教員	2
その他	72

（重複あり）

(4) 設問「あなたは、高校にどのようなことを求めますか」 (複数選択可)

生徒の進路希望や興味・関心などに応じた科目を選択することができる	278
学校行事(文化祭、体育祭、修学旅行なども含む)を通じて、充実した高校生活を送ることができる	267
大学等への進学のための学力を身に付けることができる	266
生活面の規律、社会人としてのマナー、道徳心、公共心を身に付けることができる	228
高校卒業後の進路に向けた相談支援が受けられる	210
基礎的・基本的な学力を身に付けることができる	204
友人をつくることができる	202
学校施設・設備が充実した中で高校生活を送ることができる	198
部活動を通じて、充実した高校生活を送ることができる	197
支援が必要な生徒や学校に行きづらい生徒、不登校経験者などに対する相談支援が受けられる	134
資格取得につながる学習ができる	121
就職するときに必要な知識や技術・技能を習得できる	108
補充指導や学び直し、日本語指導などの学習サポートが受けられる	83
あてはまるものはない	1

1-2 保護者等との意見交換

実施期間：令和8年1月～令和8年2月 計2回実施 15人

1-3 大学生との意見交換

実施期間：令和7年12月～令和8年2月 計3回実施 25人

1-4 中学校進路担当への聞き取り

実施期間：令和7年12月～令和8年1月 聞き取り実施校数 延べ42校

2 これまでにお聞かせいただいているご意見

(1) 高校に期待すること (県民アンケート・抜粋)

1	地域の人との関わり（例えば、企業とのコラボ）、海外の人との交流
2	学校外との大人との関わりを増やして、社会人との関わり方を学ぶ
3	ビジネスや地域社会で必要なコンプライアンスの基礎知識が修得できる。 また、地域の魅力や課題などを学ぶこと
4	滋賀県、地域の魅力の探求と交流。卒業後の進路として、進学や就職どちらになろうとも滋賀が地元と言ってもらえる（残ってくれるのが理想）環境づくり
5	留学したい子供さん向けに長期休学制度や、塾ありきの学校ではなく、学校勉強で十分に足りる教育方法、早い段階から個別に進路相談を実施してもらおうなど。大学へ進学するメリットを伝えてもらったり、子供達が早い段階に大学進学を目指してがんばれる環境があるといい
6	地域社会とつながったり、異年齢集団と交わったりして、社会の中で共に生きる力をはぐくんでほしい
7	生徒ひとりひとりに寄り添った細やかな指導が出来ればいいと思う
8	人と人との関わりを学び、ともに成長し合える環境つくりと、社会に出るにあたり社会常識を身につけるとともにコミュニケーションスキルが身につけられる環境があるといいなと思う
9	常に世界を意識した教育、聞いた見た内容などについて自分の意見を適切な言語で発信でき、議論ができる人材を育てるのが重要
10	学校、地域、多様な人との関わりで、コミュニケーション力を養え、対応力を学べるようになってほしい
11	学校や周辺地域の資源（自然環境、地域の文化など）を活かしたユニークな取り組みができると良い。どこもかしこも「普通科」で同じような取り組みをするのではなく、各学校がもっと自由に面白い取り組みを試してみて、学校の個性・魅力がハッキリ出てくると良いのではないかな
12	部活動に専門的なコーチが在籍している
13	放課後勉強できる環境(わからないところはその場で質問できる)
14	お昼ご飯を食べる施設などの整備
15	給食がある
16	体育館やその他施設へのエアコン設置が完備されることを望みます
17	女子トイレの洋式化、体育館の冷暖房設置、インターネット学習用の端末の無料支給、給食、学食の設備の開設を求めたい
18	保護者の期待に応えるためにも、各コースの明確な目標設定と実績を具体的に示すことが重要
19	大学進学や資格取得など、生徒の将来に直結するサポート体制をアピールすることが求められる

20	高校生ともなると、保護者を必要とせず自分達で運営、組織を作る経験をしてほしい。高校での PTA 活動は縮小し、こども達自身で学校経営に携わる経験をし、自分達が過ごしやすい、やりたいことを実現できる学校を作ってほしい
21	進学か、就職か、子ども自身が考えれる教育をして欲しい。みんなが行くから大学へ、ではなく、これを学びたいから進学する。そのことをしっかり教育して欲しい
22	「地域社会と深く結びついた学び」の充実。地域全体を学びのフィールドとし、どのような背景を持つ生徒であっても「自分たちの力で社会は変えられる」と実感できる。そんな、誰一人取り残さない滋賀の高等学校教育の姿を期待します
23	県内の近隣高校合同での行事ごとがあると良い

(2) 目指したい滋賀県の高等学校教育の姿について (県民アンケート・抜粋)

1	生成 AI の普及は今後さらに進んでいくと考えられるため、生成 AI を排除するのではなく、情報活用能力を基盤として適切に活用する力を育てて、生成 AI を思考を深めるための学習ツールとして位置づける教育が実現していたらいいと思う
2	15～20 年後の滋賀県における高等学校教育は、「地域に根ざしつつ、個の多様な進路と学びを保障する教育」として成熟している姿が望ましいのではないかと。人口減少や社会の高度化が進む中で、高校は単なる進学・就職の通過点ではなく、生徒一人ひとりが自らの生き方を構想する基盤としての役割をより強く担う必要がある。より良い高等学校教育を実現するための県立高等学校づくりとしては、「全ての生徒を支える学校」であることが不可欠。学力や家庭環境、心身の状況にかかわらず、安心して学び続けられる支援体制を整え、学業不振や不登校を「個人の問題」として切り離さない学校文化を形成する必要がある、そのためには、教員の多職種連携や外部専門家との協働も重要。滋賀県の高等学校教育は、個と地域を結び、変化の激しい社会を生き抜く力を育む場として発展していくことを期待したい
3	学びの魅力づくりの面では、知識の習得にとどまらず、「なぜ学ぶのか」「学びが社会とどうつながるのか」を実感できる授業が鍵。ICT の活用や探究的な学習を通して、思考力・対話力・自己調整力を育てることが、高校教育の質を高めることにつながる
4	高校ごとに役割や機能を明確化して、どのような人材を育てる場所なのか教師と生徒と保護者の相互理解が成り立つ高校を目指すべきだと思う 「●●のための学校」という存在意義を整理して明示することで県民に理解され応援される学校に変わっていくのではないかと思います
5	在学中の留学支援の充実と、卒業後の進路として海外の大学も幅広く選択肢に含まれるような教育の在り方を期待
6	夢や希望がもてるような、個人の個性を尊重して伸ばしていけるようなことを、やってほしい
7	将来の夢を描きやすいような、色々なことに興味関心のもてるようなこともやってもらいたい
8	特色のある学び、専攻科目など、他校にない強みを持った学校づくりをし、県外からの生徒を受け入れる仕組みを作るべきだと思う(地域みらい留学) その際、学寮やホームステイ制度、シェアハウスなど生活に関する土台もしっかりも作って欲しい
9	大学や企業と密に連携し、高校生が将来進む方向がリアルに見通すことができるような高校

10	理数系の学科も、文系の学科も同じように大切です。文系の学科で、より専門的な知識や研究ができるような学びと施設が充実できれば、それぞれの分野で活躍できるような高校生が必ず現れると思う。 滋賀県は、琵琶湖や自然と城跡が多くある、特徴のある場所なので、それらの研究を幅広く進めていくと、高等学校教育がもっと充実していき、楽しい高校生活が送れると考えます
11	生徒のやりたい事、興味のある事をサポートし探究心を育てて、結果に導くような事があるといい。研究のやり方など、自ら考えて調べる力をつけてほしい
12	より社会で活躍するのに、結びついた専門的な学習、技術の取得に繋がる教育になることを期待します。 また、支援が必要なこども達が就職や進学を諦めることのないような、サポートがされる学校。多様なこども達が同じ学校で学び互いに尊重し合える環境を期待
13	指定校推薦の枠を多く持てる様にしてほしい
14	県立高校から大学受験を考えた時、ほとんどの子が塾に通っています。私立高校から大学受験を考えた時、塾に行かなくても、対策をしてくれる学校が多い。公立高校が塾など行かなくても、進学や対策授業をしてくれるようになればよい
15	学業や部活に専念でき、どの学校でも楽しく過ごせる事が大切だと思います。また、大学受験に向けて、塾に行かなくても補講や対策を学校が取り組んでいただけたら、なお良いと思います
16	体調面、精神面で登校する事に不安を抱える児童にもオンライン等で対応するなど、門戸を広げてほしい。 学習内容が将来に実際に役立てられるような内容も増やして選択できるように、子供達が学習する楽しさ、必要性を感じて取り組めるようになってほしい
17	15～20年後の滋賀県の高高等学校教育は、生徒一人ひとりの学力や個性、育ってきた環境の違いが適切に評価され、多様な進路や学び方が尊重される姿であってほしい。単に学力の高低で線引きするのではなく、「どのように学び、何に興味を持ち、どのような力を伸ばしたいのか」を大切にする高校教育が理想です。 そのためには、県立高等学校それぞれが明確な特色や教育方針を持ち、生徒が自分に合った学校や学びを主体的に選択できる環境づくりが重要だと考えます。探究的な学びや、地域・大学・企業と連携した実践的な学習、ICTを活用した個別最適な学びなどを通して、「学ぶ意味」や「社会とのつながり」を実感できる魅力ある教育を充実させていくことが必要です。
18	大学と連携して、いろいろな経験を織り込んで欲しい。なぜなら、選択肢を増やしておいたほうがいいから。 チームビルディングが重要なので、部活は継続して欲しい
19	大学へ入るための学力を身につけることも必要ですが、生徒が自分の将来の道を考えるにあたり、自分がどのような個性や能力を持っていて、今後どのように活かしていけるかを知ることができるような学習の場がある高校が魅力的だと思う
20	様々な資格取得のための授業や、就職に役に立ちそうな知識の授業を選択出来ると色んな職に興味を持ち、大学の学部選びにも役に立つと思います。

21	子どもの人口が少なくなっていくので、統廃合はやむを得ないと考えます。一方で、普通科だけでなく工業、商業、農業に特化した高校はニーズがある以上、きちんと存在し続ける必要を感じます。予算の配分など難しいですが選択肢を狭めないようにお願いしたいです
22	北部や東部にも公立の通信制高校があるとよいと思います。 競争して生徒の取り合いをするような特色などではなく、地域に根ざした高校であってほしい。 小規模な高校を大事にしてほしい。小規模校は教員一人一人への負担が重くなりがちなので、加配など配慮して、きめ細かい生活指導ができるようにしたら、学校に居づらい生徒の居場所ができると思う
23	ヤングケアラーや発達に関してグレーゾーンの生徒、日本語に困難のある生徒など、困り感を抱えている生徒を支えるのが、公立学校だと思います。 学級定員をどこでも40名と画一的に固定するのではなく、柔軟に20名や30名で運用できるようにすべきです。その際、学級定員が少ないからといって教員の配置数を減らすのではなく、学校のカラーに応じて丁寧に指導にあたるように、柔軟にしてほしいです
24	また通信制高校が全国的に人気になっている一方で、北部には公立の通信制高校がありません。大津清陵高校のような通信制課程を北部にも作ってほしいです。 通信制のニーズはある一方で、北部の子どもたちは公立の選択肢が事実上なく、格差があると思います
25	不登校の生徒が増えているので、通信制の学校だけでなく、既存の高校の中に、そのような生徒さんが行きやすい多様性に対応できるコースのある学校が増えてほしいです。選択肢を増やしてあげてほしい
26	工業高校を増やすなど工業教育の充実が必要で、県内の高校生の就職できる場を増やし、県内企業に貢献できる人材の育成を図ることが大切である。 また、進学を希望する学校においても大学や企業と連携し、滋賀の人材確保に努められるような地産地消の取り組みを行う必要がある
27	自分の学びたい分野について深く学べる場であるとともに、視野が広がって将来に繋がるような場であって欲しい。普通科と専門学校を混ぜたような高等学校が良い
28	目標に向けて、生徒が学びたいことを選び自ら学ぶ姿がある学びが必要であると考えています。キャリア教育も重要だと考えています
29	大学進学のための受動的な学習だけでなく、子ども達が能動的に学べる学校があると魅力的だと思います
30	日本国内だけではなく、広く海外で生きていける語学力を養う。単に英語だけではなくその他の言語も選択できる高校があってほしい
31	交通の便の良い通いやすい学校が残ってほしい
32	A I に負けない、より一層自分で考える力を持った生徒を育てほしい

33	現在、高等学校には通級指導教室が設置されている学校が2校しかありません。年々、支援の必要な生徒が増える中、中学校卒業後、高等学校に進学しても通級指導が受けられずしんどい思いをしている生徒が多くいることを知っていただきたい。 また、高校になってからコミュニケーションスキルやライフスキル、ソーシャルスキル等必要になる生徒も多々います。 将来は、各高校に通級指導教室を設置していただきたいと切に願います
34	人口が減少した地域においても高校は残してほしい。そのためにも早い段階で普通科の全県一区制はやめたらいいと思う。地域の子どもの地域で伸ばすことができたらいいと思う。 実業科の学校や定時制はなるべく残してほしい
35	英語を含む学力はもちろん必要ですが、AIを前提とした社会においては、人間の主体的に考える力と、身体を使った遊びやスポーツの価値が大きくなると思う。好きなことに熱中して取り組むことは、子どもたちの努力する力、挑戦する力、また結果的に学ぶ力も育むと考えます。 従来の部活動は縮小傾向かもしれませんが、外部の専門的な講師を迎え、スポーツ・美術・音楽などにあえて本格的に取り組める環境をつくり、国内トップクラスの選手やアーティストを輩出する県になると面白いと思います
36	学習面だけでなく、進路や将来の目標について深く考えられる環境があれば良い。また、高等学校教育でも滋賀の特色を生かした（例えば琵琶湖学習）ものが学べればなお良いと思います
37	滋賀県の自然環境の豊かさを活かし、第一次産業の良さや重要性を伝える学部があるといいなと思います
38	将来的にどの進路でも対応できる学科や、選択肢を持てる学校であって欲しいと思います。 進学校では、進路の選択が早まっているが、理系文系と分かれてしまってからでも、その後の進路変更が可能な限りしやすくなるよう、クラス分け、選択授業の幅が出来るとうありがたい
39	高校においても給食の導入や、温かい食事を安定して提供できる仕組みがあればよいと感じています。 現在は多くの家庭で弁当の準備が必要ですが、共働き家庭も増えており、毎日の負担は決して小さくありません。 栄養バランスのとれた食事を学校で提供することは、生徒の健康維持や集中力の向上にもつながり、学習環境の充実という点でも意義があると考えます
40	定員割れだとどんな学力でも合格してしまう。定員割れの学校は定員を減らしてほしい。少子化で人口はどんどん減っていつてるので、統合、閉校を考えるべき
41	引きこもりや不登校対応、発達障害への対応を明確に打ち出した県立高校があってもよいのではないか
42	普通科高校が多いので、定員規模を揃えて再編成してほしい。実業的な学びのできる高校は持続させる、もしくは拡大させてほしい

43	普通学科だけではなく、看護や介護に特化した学科や、美術やイラストを学べるコースを北部地域の高校にも作るとか、食に興味がある子どもも多いので、料理について学べるコースを新設するなどあってもよいのではないかな
44	県内どこの高校でも通えるのはありがたいですが、実際には交通機関の便が悪く田舎の高校生ほどハンデを背負うことになります。通学時間帯だけでも交通機関の充実を図っていただきたい
45	一定の高校統廃合は致し方ないと思うが、通学手段、通学費に救済措置が欲しい
46	通級指導教室をもっと増やしてほしい。現在 2 校しか設置されていないのは、現状にあってない
47	ICT 教育が浸透してきたこと、また、教員不足を踏まえると、A 高校から同時配信で BCD 高校の生徒に同じ授業を遠隔授業すれば、授業する教員は一人で済むと思います
49	子どもの人口減っているので、公立高校も縮小していくべきであると思う。大阪府のように定員割れが 3 年続いたら、閉校もしくは統合など具体的に示したらよいのではないかな
50	今以上に高等学校間の交流を図った方がよいと思う
52	私立についてはもう少し行きたいと思える学校が増えるといいなと思います。あとは、滋賀大学教育学部の附属高校ができてよいかなと思います
48	公立高校で、第一希望から第三希望まで専願と併願出願できるようにしてほしい
51	学費のことを考えると補助があっても公立に行ってもらいたいのが本音です。第二希望でも行けるようになると嬉しい
54	国が検討中のデジタル併願をいち早く取り入れてほしい。第三希望までだと、本当に 1 番行きたい高校を志望することができるので
53	学生数が減ってくるので、それをチャンスにして、個別的な指導を増やしてほしい
54	まず、県全体を見渡してどのように県立高校を配置するのか、規模や学科について、県としてのグランドデザインを打ち出すことが必要だと思う
55	工業高校、商業高校など専門的知識を学べる高校こそ充実させてほしい
56	先生方もお忙しいと思いますが、子ども一人一人に寄り添った対応をしていただけると、自分のことを理解してくれる身近な大人が増え、学校自体がもっと生徒にとって居心地の良い場所となり、学校生活も充実するのではないかなと思います
57	人口減少社会、少子高齢化の進行に伴い、県立高校の統廃合は避けて通れないと考えています。統廃合を考えるにあたっては、単純に人口・年少人口が少ない地域の高校を統廃合することは止めて欲しい。県立高校が全県一区になる際、県南部に生徒が流れることを懸念し意見をしましたが、残念ながらその通りとなっています

58	15～20年後、少子化がさらに加速したとしても、滋賀県内の各地域に学校が存続し、生徒一人ひとりが自分の住む地域で質の高い教育を受けられる姿を目指すべき。大規模校への集約による効率化ではなく、小規模校であってもICTや外部連携を駆使し、地域社会と一体となった「小さくとも輝く学校」が各地に点在する姿が理想
59	地域に根ざした学校は、その地域にとっての「知の拠点」であり、文化を次世代へつなぐ生命線。農業、伝統産業、福祉など、地域の大人と協働する学びを公立学校が先導して提供することで、どんな背景（発達支援、不登校経験、経済的困難など）を持つ生徒であっても、「自分が必要とされている」と実感できる居場所を創る
60	全日制・定時制・通信制の枠組みを超えた柔軟な学び方を導入し、登校が困難な生徒や特別な支援が必要な生徒に対しても、オンラインと対面（地域での実習）を組み合わせた「オーダーメイドの学び」を公認する体制を整えるべき
61	現在、滋賀県には県立の通信制課程が一つ（大津清陵高校）しかなく、県北部の生徒にとってはスクーリング等の通学負担が極めて重いのが実情です。不登校経験者や家庭環境に困難を抱える生徒が、住み慣れた地域で学びを継続できるよう、県北部への公立通信制課程の設置、あるいは既存の北部校への通信制機能の付加を強く要望します
62	将来の滋賀県の高校教育において、「地域格差や家庭環境に左右されない、学びの質の保障」が最も重要であると考えます。どんな背景を持つ子どもであっても、滋賀のどこに住んでいても、質の高い多様な学びにアクセスでき、自分を肯定して社会へ踏み出していける。そんな「誰一人取り残さない」滋賀の高等学校教育の実現を強く望みます

(3) 保護者等との意見交換においてお聞かせいただいたご意見

1	滋賀の子育ての環境は良いと感じる。子どもには国際的な教育を受けさせたいが、県内はこういった教育が少ないと感じる。留学もさせたい
2	県立の通信制は授業料のメリットはあるが、受検の時期が限られており、9月でも入学できるなどフレキシブルにしていただけるとよい
3	高専を進学先として選んだ動機は、まずは大学受験がないこと。そして高専から大学に編入できること。また、国立高専は授業料が安く、寮に入っても負担は少なかった。それなりの学歴が得られ、専門知識で就職も進学もできるところ（県外国立高専出身の保護者）
4	高専と工業高校との違いは、高専は大学と同じ扱いになる。カリキュラムが異なるため、高専を途中でやめても高校に編入できない（県外国立高専出身の保護者）
5	高校1年生の段階で文理を決めるのは早すぎるように感じる。大学も文系理系の枠を外した学部をつくっている。高校も文理どちらにも行けるクラスをつくってもよいのではないか
6	全県一区制について、自分のころは大津の高校に行きたかったが、区域外からの枠が少なかったので、受検できなかった。今の制度は良いと思っている
7	大津からは虎姫のバカロレアは遠い。国際的な学びの選択肢が少ないので、南部にバカロレア校があったら行く生徒もいるのではないかと。また、堅田あたりにも中高一貫校があれば行く生徒はいるのではないかと思う
8	子どもの数が減っていく中で、生徒数が減ると部活の選択肢もなくなってしまう。様々な生徒同士が触れ合うことも大切で、公立も学科を増やしたり、特進のようなクラスを設置したりして生徒が集まるとよい
9	支援の必要な生徒の進学先として高等養護学校もあるが、高校の卒業資格を得るために彦根の私立高校まで通っていた生徒もいる。私立はそのあたりの支援が手厚いようで、こういったことを県立でもしていただけるとよい。学力的には問題ないがコミュニケーションが取れずに高校をやめた生徒もいる。こういった生徒も高校の卒業資格を取れるようにしていくことが必要ではないか
10	子どもが減っていく中で、学校の数が減っていくと受け入れてもらえるところがあるかという心配がある
11	得意なことを伸ばしていけるような学科の選択肢が広がるとよい
12	入学してみたけれど学校になじめない、でも勉強はしたいという生徒はいる。そのような子に対しては、自宅で授業を受けられる仕組みがあるとよい
13	いわゆる自宅浪人している生徒が、卒業していても学校で自習することができる高校があってもよい
14	私立高校には予備校と提携しているところもある。県立も学校によってはそういうところがあってもよいのではないかと
15	高校は、自らが責任を持つという意味でも、制服でなく私服でもよいのではないかと。県外では偏差値の高い学校は私服になっていると聞く
16	県外では制服がない高校も、結果的に制服っぽい服装で登校していると聞く。頭髪もそうだが、自由になると奇抜になることもあるが、やがて落ち着いてくるのではないかと

17	通信制は、勉強したいと思う人にとっては本当にいろいろな講座があり、いろいろなことに取り組める。目標ややる気がある子どもにとっては通信制の選択はありだと思う (広域通信制高校の保護者)
18	県立高校のオープンキャンパスは中学3年生が対象になっている。私立は2年生でも参加できるので、県立も2年生が参加できるようにしてほしい。中2の子どもたちは進路選択に対してあまり実感がない様子
19	今までの私立は「手厚い」というイメージがある。無償化によって人気が出て生徒が集まったら手厚いサポートをしてもらえなくなるのではないかと心配している
20	公立志向であることは変わらないが、受験校のレベルを下げなくなった
21	指定校推薦の枠が多いのは魅力的である
22	県立高校は施設がよくない。部活動の充実度、教員の質を上げる必要がある
23	まずは子どもにわかりやすい魅力を出さないといけない。県立は見えにくい。私立はわかりやすい。なにか1つ、わかりやすいものを見せてほしい
24	子どもたちは、実体験が少ないから、「こういう学びがしたい」という思いを持っていない
25	コース名がカタカナばかりでわかりにくくなっている
26	理系、文系、の選択がわかりにくい。入学してから急いで決めないといけない
27	高校生にキャリアカウンセリングを丁寧にしてあげるべき
28	国の方針や、私立との関係など、様々な課題等はあるかと思うが、やはり県の教育委員会や県立学校はいつまでも「子ども目線の学校、教育委員会」であってほしい
29	学校の魅力化だけではなく、「魅力的な生徒をつくる学校」という視点もあるのではないかと
30	高校1年生くらいの段階で、いろいろな進路の選択肢を知ることができると良い
31	今までの詰め込み型(満遍なく知識を広げる)も必要だと思うが、個人の特性を重視した進路選択ができる高校が増えるのが理想。早い段階から専門知識と技術を身につける環境はとても大事。早い段階で建築やものづくりに興味出たら、その特性を伸ばしてあげて、その技術で生活できるのが理想
32	今後の高校の在り方について、「よい大学に入ることを目的としない」高校が増え、地域活動と繋がり、経済と繋がることから自分にできること得意なことを見つけることができる場所となればよい
33	言われたことを確実にこなすだけでなく、「もっとよくするためにはどうしたらよいか」を考え、実際に行動に移す実行力、一人ではできないので複数人で得意を活かして実行する力、対話で解決しようとする力、子どもたちが十分に考え実行してみる力を養っていただきたい
34	単位制の学校がもっと増えたらよいと思う
35	公立学校の意義として、選択肢がたくさんあるとよいと思う。学力で競争させず、やりたいことで、すべての子どもがそれぞれ自分で能力を伸ばしていけるような支援をしていただきたい

(4) 中学校等卒業予定者進路志望について (中学校進路担当への聞き取り)

①志望校を選ぶ主な理由

1	まだまだ滋賀県は公立志向が多い
2	普通科志向の家庭が多い
3	オープンスクールや体験を通して、商業、農業や家庭、総合といった普通科以外の学習に興味関心をもった生徒も少なくない
4	在学中に資格が取得できる学科への希望が増えた
5	塾のアドバイスは大きく影響している
6	自分の学力に合っている、かつ普通科であれば良いという生徒が多い
7	家からの距離が近く、自転車で通いたいと考える生徒も多い
8	入りたい部活動がある
9	学びたい学科がある
10	大学進学実績
11	高校卒業後の進路（進学、就職等）
12	自分自身で進路を選択できる生徒は減少していると感じる。保護者や塾、クラブチームの監督などからのアドバイスに従っている生徒が多い。自分で選択する際にも友達が行くからという理由もある
13	最寄り駅から高校までの距離や通いやすさ
14	「学校の雰囲気」「卒業後の進路実績」「部活動」「校舎のきれいさ」「通学時間」などの声をよく聞く。「自分の学力に合った」を第一に検討している生徒は少ない印象
15	塾の分析を重視している生徒は、ほぼ「学力」のみで選択している
16	最初は、学校の雰囲気や偏差値、入学後の学び、学校の立地で選んでいる。しかし最終的には、希望に加えて、自分の学力にあった学校を選んでいる
17	興味関心や将来の展望をもとに高校でのカリキュラムを参考に選んでいる生徒、塾の模試の結果を含めて学力で選んでいる生徒、スポーツ推薦で行く生徒、に大別できる
18	学校がきれい、行事が充実している、家から近い、知り合いが行くなどの理由で決める生徒もいる
19	オープンスクール時の高校の雰囲気や学校行事
20	体験入学等で実際に高校生活の様子を聞いて決める生徒もいる
21	学科の特徴やオープンスクールでの学校の雰囲気
22	偏差値重視の傾向が強い生徒もいる。学びたい内容よりも、ネームバリューに左右されているように感じる
23	将来的に大学への進学を意識している生徒が多く普通化志向が強い。専門学科を選んだ生徒の中にも、最後まで大学進学可否を心配している
24	学習のサポート体制が整っている

25	近年、中学校卒業後に県外の高校を選択する生徒が増加。これは保護者の出身地が県外であること、保護者が京都・大阪方面へ通勤していることなどが背景にあると考えられる
26	(学力の高い生徒) 進学塾の指導を素直に受け入れ、県内公立、県外私立といった受験パターンを塾のデータや経験に基づいて決定している (中程度の学力の生徒) 多様性と自由度を求める傾向が強く、学校の雰囲気、部活動の充実、学校行事などを重視して学校を選んでいる
27	最終的には「行かせてよかった」という卒業生の体験談や保護者の声が、学校選択に大きな影響を与えている
28	大学への進学実績や、内部進学・指定校推薦の枠組みが明確であることが重視される
29	私立を選ぶ理由として、「部活動で夢が叶えられる」「楽しみながら大学受験につながる」といった視点がある
30	私立高校の魅力として、四年制大学への進学実績、希望する職業に繋がる専門性、資格取得支援などが挙げられる
31	保護者の間でも高学歴の層は積極的に学校見学に行くなど熱心。 一方で、子どもの意見を重視する保護者も増えており、特に子育てに難しさを感じている層は、子どもの希望を尊重する傾向がある。
32	私立を選ぶ保護者の中には、学校のブランド力を重視する傾向が見られる。これは自身の出身校のイメージや、京都・大阪方面の教育水準を基準にしているためと考えられる
33	保護者は、経済的な負担を考慮しつつも、「希望」と「安心」の両方を満たす学校を選ぶ傾向がある。 学費に関しては、いかに抑制できるかを重視し、費用対効果やメリットを強く意識している様子
34	保護者の傾向として、経済的な側面も考慮しつつも、子どもには質の高い教育を受けさせたいというニーズが根底にある
35	公立高校に進学した場合、塾や予備校代に多額の費用がかかるという情報が保護者間で共有されており、私立で一貫してサポートしてもらう方が良いと考える傾向が見られる
36	高専を希望している生徒は、より専門的な内容の学習を望んでいる

(県外私立高校を選ぶ主な理由)

1	部活動で活躍したい
2	大学への進学率が高いことから進学を希望している。また、大学附属校への進学後、内部進学で大学へ進学するということを考えている生徒も多い
3	スポーツ推薦
4	専願受験をする場合、大学との連携や部活動、学習環境を重視している
5	校風や進学実績に魅力を感じて進学している
6	指定校枠の多さや大学への進学実績
7	指定校推薦に魅力がある
8	地域クラブと県外高校のつながりから、受験を希望
9	クラブチームの関係者と高校側とのつながりで話が進んでいることが多い
10	コース設定に特色がある高校（英語指導や特進コースなど）
11	大学の附属高校で、内部進学で大学へ進学ができる
12	京都の私立は、学費の減免基準や、進学条件が明確に提示されているため、保護者にとっては選びやすい傾向にある
13	京都以外の県外私立には、スポーツ（野球、サッカーなど）を目的とした生徒が多く、遠方への高校にも入学している。 これらの生徒は、クラブチームの監督や学校の先生との個人的なつながりを通じて、説明会や練習会に参加し、認められるケースが多い。 寮が整備されている学校や、地元の県で有力視されている強豪校が人気

(通信制高校を選ぶ主な理由)

1	不登校生徒および傾向のある生徒のニーズが高い
2	サポート校が滋賀県内にある高校が人気
3	集団での学習がつらい
4	全日制で通うことが難しい
5	毎日通学する生活ができない
6	実際に学校へ登校することが難しいが、なんとか自分のペースを保ち勉強を進めていきたいと考えている生徒が選択
7	アルバイトもしたい
8	自分のペースで学習に取り組める
9	中学校時の不登校によるものが多い。このような生徒は入試や面接、入学後の高等学校の生活に不安を抱えている場合が多いが、入試前に面談を行っていただくなど、きめ細やかな対応を高等学校側がしていただいていることで志望につながっている
10	登校する日が少ない
11	通信制を志望する理由としては、少人数による安心感、自分のペースで進めたいという希望、独自のカリキュラムへの魅力、等を聞いている
12	一番多い動機は「不登校傾向で、全日制に通える自信がない」
13	自分の体調に合わせて通学する日数を決められるコースがある
14	人との関りが苦手で、なるべく登校せずに学びたい
15	少人数の環境で学習ができる
16	個別対応で配慮がある
17	生活リズムを整えながら、落ち着いた環境で学習を進めたい
18	オンラインやスクーリングなど、学ぶ方法での選択が広がる

②高校授業料無償化拡大の影響

1	私立高校希望者が増えた
2	部活動（特に外部で活動の生徒）の私立推薦が増えた
3	私立高校専願者が増えた
4	例年よりも私立高校の推薦および専願受験者が増加した
5	私立高校を専願および推薦で受験を希望するものが例年よりも多い
6	私立の無償化の影響で「それなら専願で」という生徒が増えた
7	私立だからという高い壁が低くなり、県立高校と同じように選択できるように感じる生徒が増えた
8	私立高校については、授業料無償化以外に、施設利用費や雑費等を含め、実際にどのくらいの費用がかかるのか明確に知らされていないから、と二の足を踏んでいる保護者も見られた
9	保護者から公立と私立の入学後の経費について問い合わせを受けた
10	多少「県立×の場合、最悪、私立でも良いかな」というご家庭が増えたように感じる
11	経済的に苦しい場合でも、私立高校への進学を視野に入れている家庭が増えた

③入試制度の変更による影響

1	全受検者に学力検査を課すため、学力に不安のある生徒が私立に一定数流れている
2	選抜回数は2回でも、出願校は1校なので、より慎重に志望校・受検校を検討している傾向がある
3	特色選抜がなくなったことで、12月時点で、地に足の着いた志望校選択を行っている印象がある
4	推薦選抜を希望する生徒自体が減少した
5	学校独自型選抜を志願する生徒は少ない
6	例年であれば特色推薦選抜でチャレンジしていたようなパターンが減り、自身の成績に見合う高校を志願する生徒が増えた
7	学力的に無理をしない選択が数件あった
8	学校独自型選抜において、基準を満たすことができず受験をしないという生徒が多い

(5) 高校生の時期を振り返って思うこと (大学生意見)

1	進路を選択する際に、部活動を頑張れる学校を検討していたが、学力とのバランスを考えた時に、あう公立高校がなかった。部活動も学習も頑張れる高校があればいいなと思っていた
2	通学時間は電車とバスで大体1時間30分くらいかけていた。時間が長いことに関しては面倒だったが、部活が強い高校を選んだ。
3	施設については特別なものではなくても、最低限のきれいな施設であればいい
4	トイレが古く、タイル張りだったり、個室が木のドアだったりして、トイレが汚いのが嫌で違う学校にしたという人も一定数いた。自分は高校選びの基準に「家から近い」というのが上位だった (県外高校出身者)
5	高校は大学の指定校の多さで選んだ。中学段階で決めていた。兄が2人いた影響で、高校卒業後の見通しを持った選び方ができた。兄は別の高校に通っていて、高校の比較ができた。
6	トイレについて、当時はそれが当たり前だという感覚で特に疑問もなかったが、大学に来てトイレがきれいで驚いた
7	トイレはきれいな方が良い
8	オンライン授業は反対。少なくとも高校までは対面授業を行うべき。オンラインでは内容があまり入ってこない
9	オンラインばかりだと、ただ勉強して終わりになる。対面がないと、人とのコミュニケーションを忘れそう
10	部活動の先輩とのタテの関係が非常に大切だと感じていた。部活動のあり方が見直されようとしている中で、部活動に所属していなくても、タテの関係が築ける環境が大切ではないか。部活動以外の場でも、部活動とは異なる良いタテのつながりが築けるとよい
11	部活動の種目によっては、中学くらいから京都私立を選ぶ傾向があると思う
12	母校は厳しかった。厳しい校則がないとみんな好き勝手するので、おかげで大きな問題は起こらなかったのだと思う。親は安心していたと思う
13	部活に仲がいい先輩がいると、深い話を色々と聞ける。だから部活はあったほうが良いと思う。縦のつながりがつくれる
14	母校は部活をするクラスとしないクラスでクラス分けをされていた。部活をするクラスにいたが、学習の進度としては、中学校の内容からやっているかというような感じで物足りなかった。自分は進学したかったが、部活もしたかったので、部活をしないクラスにはいかなかった。部活も勉強もできるコース、併用したりできるコースがあればよかったのと思う (県外私立高校出身者)
15	教科書は全部デジタルにしてほしい。使わない教科書はいらない。辞書とか
16	偏差値で学校を分けるのではなく、1つの学校に幅広い学力層の子がいる方がいいと思う。自分に近い先輩の話ばかりを聞くと固まってしまう。部活を頑張りたい人も、勉強したい人も一緒にできるといい。そういう学校になった時、学校選びの基準になるのは近さになると思う

17	最寄り駅が近くにあったらいい
18	自分は学力で学校を選んだ。部活の魅力や学校の取組で選ぶ人は周りに少なかった
19	地元の学校がやんちゃだったので、比較的安全で楽しそうなところ、希望の条件で部活ができそうな環境を基準に選んだ（県外高校出身者）
20	自分は中学校から先生になりたいと思って、先生になれるような学校を選んだ（県外高校出身者）
21	高校では、体育祭、文化祭、修学旅行、部活動、コンクール・大会が印象に残っている。学校行事はひとつの居場所。勉強ができなくても活躍できる
22	資格・免許を取れることが魅力で進学した
23	自分は高校で教員コースに行っていた。教員や経営者等なにか特化したコース・学科があれば、生徒は集まるのではないか。教員養成コースや海外留学コースなど（県外高校出身者）
24	制服はあったほうがいい。服選びの時間や、費用を抑えられる。みんな一緒にの安心感もある
25	制服が可愛いので、制服で高校を選んだところもある
26	校則や制服がなく自由なのもいいが、行き過ぎると放任になってしまう。ある程度のルール、枠組みは作ってあげるべきだと思う
27	高校に行っている先輩の話を聞いて、高校を決めた。
28	姉の話やオープンキャンパスに行って、高校を選んだ
29	先輩から、どんな先生がいるのか、先生の印象も聞いていた
30	これといって将来の目標・やりたいことがないひとは、自分の学力のなかで行くことができる偏差値の高い学校を選んでいた印象がある
31	テストで良い点を取って、推薦で大学に行こうとしている子が多かった。推薦や大学との連携などがあるところが魅力的に映る
32	大学の先生や、企業の人、公務員の方など、いろんなジャンルの人が高校に来て、話を聞いたことが、将来を見据えるいい機会になった
33	友人は、体育祭が楽しそうなこと、メイクができる、髪の毛が染められる、といったことを基準にして、楽しそうにみえる高校を選んでいて、指定校や将来を見据えての選択の話は一切出ていなかった
34	授業内容によってオンラインかどうかを使い分けるべき。カリキュラム的に履修が必要なものは対面すべきだと思う。オンラインでは勉強しにくい
35	「夢を探す学科やコース」のある高校があれば、夢を持っていない子でも通いたいと思う高校になるのではないかなと思う。さまざまな職場体験ができたり、企業の話を知ったり、将来のために海外の視点に触れる機会（オンラインで海外の高校生と話す機会など）があったりする高校は、行ってみたいと思う。

36	高校の時は、外国のことに興味を持つきっかけが少ないので、高校のカリキュラムのなかで、海外との交流ができたらい。例えば、姉妹都市を結んでいる都市の高校との交流や、修学旅行で海外に行くなど、世界を見ることは大切なのではないかと、大学生になり感じました
37	地域と関われる学科があると良い
38	夢につながるきっかけを高校生の時にできるとよい
39	人間関係が広げられる活動があると魅力的
40	魅力のある学校づくりや学びづくりに関しては、さまざまな子どもたちの実態があるように、さまざまな高校があったほうが良いのではないかと考えます。例えば、教職コースや情報 ICT コース、医者・弁護士を目指す人を対象としたコースなど特殊なコースのある高校だけでなく、学校行事を生徒主体に重きをおく特徴のある普通科の高校、私服可能な高校、夢や目標が決まっていけない夢を探すコースのある高校など
41	教職コースでは、周りの生徒も教員志望の生徒ばかりとなり、視野が狭くなってしまうのではないかと感じて選ばなかった。高校の段階で、一つの道に集中しすぎるよりも、普通科・総合学科がよいと思った (県外高校出身者)
42	大学でも、学部によっては、夢・やりたいことが分からないという人もいる。大学でもそういう人がいるのに、高校生で特化するのには難しい人もいると思う
43	政経の授業は受験科目にない生徒は学ばない。でも、税金の使い道や確定申告の仕組みなど、お金の勉強をもっと高校ですておくべきだった。いわゆる金融教育。大学生になって、一人暮らしやアルバイトを経験して、そう思うようになった
44	高校で、将来のことを考えて、大学の一手手前の段階の学び、もう少し専門的な学びがあると、大学の学びがイメージできるのではないと思う。大学の学びを見据えた高校教育が必要。また、病院や地域の交流施設などに出向いて、働いている姿を見ることで、大学で学ぶ意義や目標が見えるのではないか。部活動でもマネージメントの難しさや先輩との関わり(人間関係)など、多くのことを学ぶことができ良い経験になった。今後も大切にしていけるべき
45	ちょっと困ったり、悩んだりしたときに気軽に立ち寄れる空間が学校にあるといいのではないか
46	中学生は高校のことに関心を持っているが、体験入学やホームページの情報だけではわからないことが多い
47	高校の進路指導については「進学校だから国公立を目指す」などの固定観念を持った指導がまだ残っているように感じる
48	制服はあったほうが良い。高校生のときにしか着られないという特別感がある。朝が早くて、服を選ぶ時間がない。私服では、人によっては個性が出せるのかもしれないが、家庭事情などで差が出てしまう

49	高校に入学してみて、「何か違う」、高校で勉強してみて「もっとこういうことがしたい」「こういう勉強がしたい」と思うことはあると思うので、その時の転校に対する支援を丁寧に行うことができるのではないかな。今は転校するときの選択肢が限られていると思う。転校に対して柔軟に考えてあげられるといい
50	登校できない生徒への支援の充実。ICTなどを活用して、家でも授業が受けられる仕組みづくりを設けるといいのではないかな
51	自分のペースで学べる環境づくりが大切だと思う
52	不登校支援として、家で授業を受ける、家から課題（宿題）を提出するなど、家でも学べる環境を整えることが大切
53	家は出られるが教室に入れない生徒がいる。保健室で対応しているケースもあるが、保健室だけでは足りず、別室を用意しているところもある。別室にいる（学校に来ている）と、友だちが迎えにきてくれて、給食のときだけは教室に入れることもある。家ではだれにも会わない。家と教室の間のような居場所が小さなステップアップのためにとても重要だと思う。教室と別室の併用ができるとうい
54	英語をもっと活用できる学科、国際学科など、海外に挑戦できる学科があったらいい
55	新しい学科というよりも、普通科に進んでも、様々な分野からゲストティーチャーに来ていただいて、その生き方などを学ぶことで多様な学びにつながるようにできればいい
56	例えば、工業系であれば、週に1度企業や工場に学びに行くなど、特別な学びができるとうい
57	いろいろな分野を学ぶ生徒が交流できる仕組みが必要。複数のコースを作って学ぶが、各コースで異なる学びをすることで、交流したときに生徒それぞれの知識や考えを広げることができるとういと思う
58	1つの学校にいろいろな学科やコースがあるとうい。学科やコースが複数あることで、いろいろな生徒が通いやすくなるのではないかな、生徒それぞれが自分のしたい勉強ができるのではないかなと思う
59	中学校のときの職業体験で働く意義とかそこで考えさせられた。高校生でも職場体験を行って、働くことがどういうことか、お金の大切さや売上処理の重要性などについて実体験として学べる必要があるのではないかな。高校生のときからそういう職場体験を通じて金融教育にも繋がっていったらいいと思う。
60	学校に自習スペースがあると良い。一人時間が作れる場所があるとうい。家庭環境によっては自分の部屋がない、自宅では勉強ができない生徒がいるので